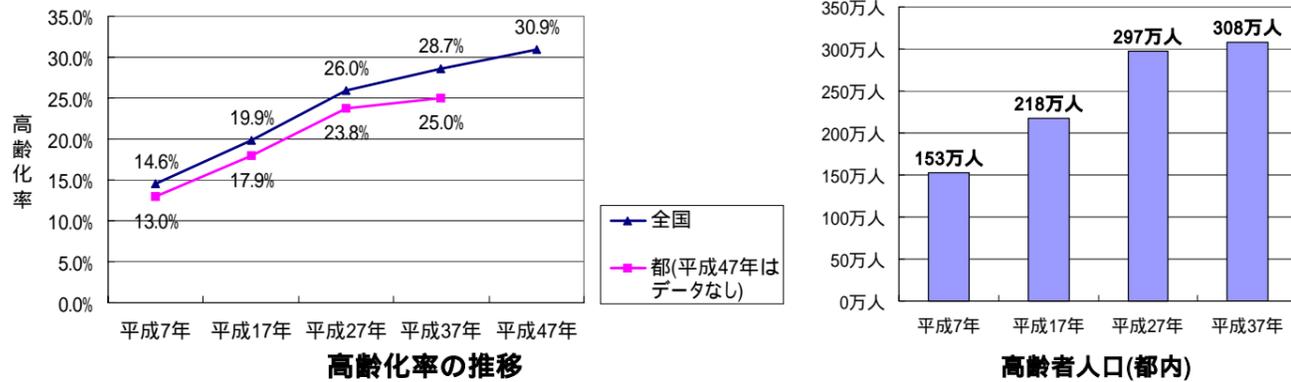


# データから見た認知症の現状

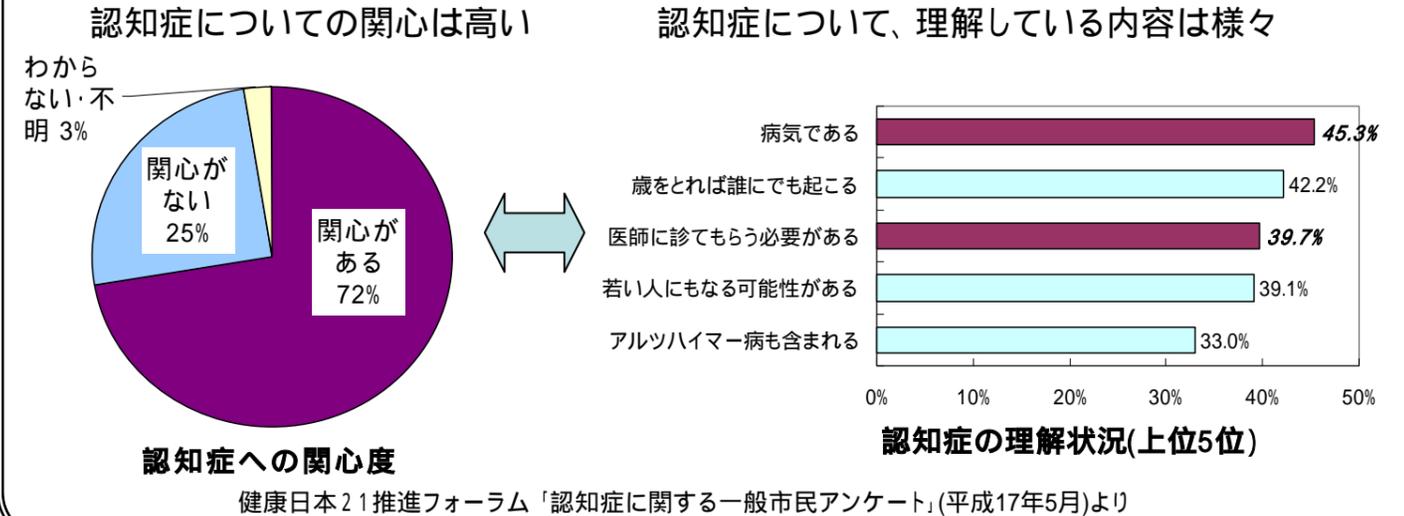
## 高齢者人口の推移

団塊の世代の高齢化等により、「4人に1人が65歳以上」の時代が到来



総務省「国勢調査」(平成7年)、国立社会保障・人口問題研究所「都道府県の将来推計人口」(平成14年3月)、東京都「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」(平成17年1月)より

## 認知症に関する意識



## 認知症高齢者の人数

何らかの認知症の症状がある高齢者は、都内に約23万人(65歳以上人口の約10.8%)  
見守りまたは支援の必要な認知症高齢者は、都内に約16万人

年齢階層	認知症高齢者の日常生活自立度			合計
	自立	以上	合計	
~64歳	7,172人	2,223人	4,824人	14,219人
65歳~74歳	31,683人	14,049人	22,257人	67,989人
75歳~	81,775人	63,135人	135,171人	280,081人
合計	120,630人	79,407人	162,252人	362,289人

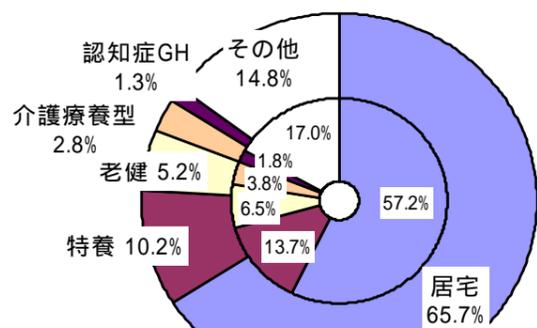
「認知症高齢者自立度」  
認知症高齢者の日常生活に関する自立度の判定基準となるもの(ランクはAからMまで)  
: 何らかの認知症の症状を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している  
: 日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少みられても、誰かが注意していれば自立できる

### 認知症高齢者の推計(都内)

東京都「認知症高齢者自立度分布調査」(平成16年12月)より

## 認知症高齢者の住まい方

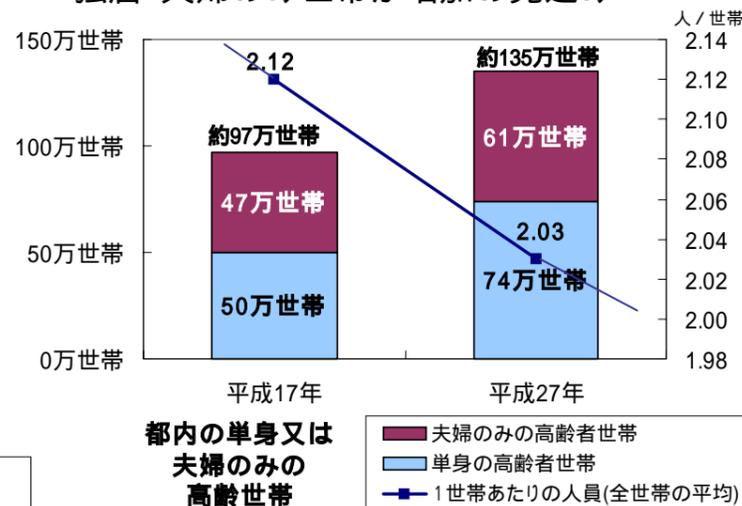
半数以上は居宅で生活



認知症高齢者自立度  
外円: 以上  
内円: 以上

東京都「認知症高齢者自立度分布調査」(平成17年10月)より

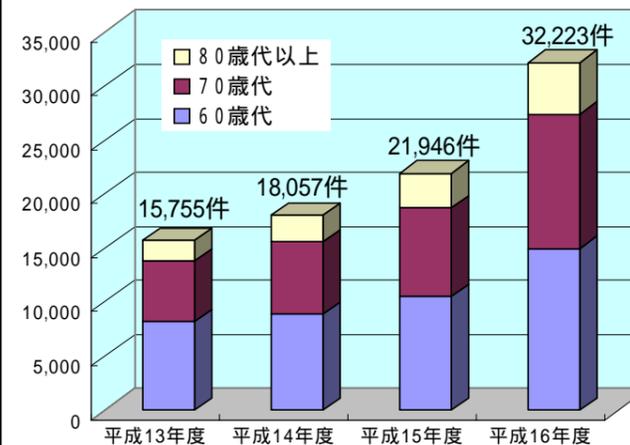
独居・夫婦のみ世帯が増加の見込み



国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計(都道府県別推計)」(平成17年8月)より

## 生活上のリスク

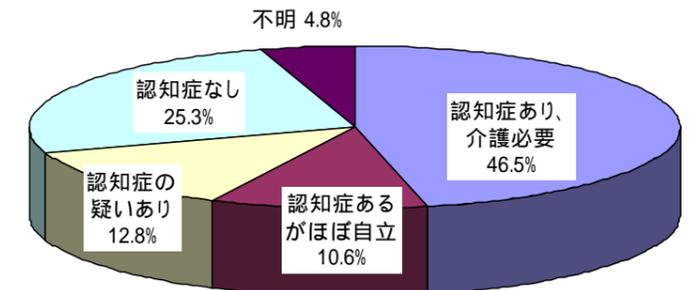
高齢者の消費者被害が増加



### 高齢者相談件数の推移

東京都「高齢者の消費生活相談の概要」より

高齢者虐待と認知症の関係



### 虐待事例における認知症の状況

認知症の人(疑いを含む)の場合の虐待の要因

- 1位 本人の認知症による言動の混乱(37%)
- 2位 本人の身体的自立度の低下(30%)
- 3位 本人の性格や人格(18%)

東京都「東京都高齢者虐待対応マニュアル」(平成18年3月)より

自動車の運転も難しくなる

・65歳以上の運転免許証保有者 約930万人(平成16年・全国)  
うち認知症は推定で約30万人

・高齢者による運転免許証の返納は 年間1万4千件程度

・運転免許証を持ち続ける理由  
「運転が好き」  
「他の交通手段が乏しく、仕事、通院、買い物などに車が必要」など

認知症の人に関する事故としては、認知症が疑われる高齢運転者が高速道路を逆走して順行の車と衝突し、本人が死亡したケースなどがある。

参考: 全国キャラバン・メイト連絡協議会「キャラバン・メイト養成テキスト[2006年版]」より(警察関連データとして引用)

# 認知症支援の課題と取組の方向性

## 認知症支援の現状と課題

### 「面的」な支援に向けた取組の方向性

#### 認知症への理解促進

認知症の本人が抱える不安や辛さについての理解促進

多くの住民が、認知症を自分たちの問題として受け止め、理解するための情報発信

発症のリスクを軽減し、進行を抑制するために必要な生活習慣への配慮や活動の促進

#### 本人や家族の意識啓発

認知症を隠さず、生活や介護に関して周囲に必要な支援を求めることの重要性についての理解促進

#### 活動の場・居場所づくり

認知症の人が生活に意義を見いだせる居場所の提供

認知症の本人や家族が、相談し、思いを吐露し、助け合える機会及び場づくりの促進

#### 生活の場面での支援

地域で生活する人々や働く人々の、認知症に対する理解促進

様々な仕事に密着する場面で具体的なサポートができる仕組みづくり、人材育成

隣近所でちょっとした助け合いができる地域づくり

### データから見えてきた課題

認知症への関心は高いが、とらえ方は様々

世帯の規模はますます小さくなり、単身や夫婦のみの高齢世帯も増加するため、家族による介護はより困難に

詐欺・悪質商法、虐待など、様々なりスクから守る方策が必要

認知症の本人が、意図せずに事件・事故等の当事者になってしまう例も少なくない



### 認知症による生活障害の特徴

#### 記憶障害や見当識障害により

- ・やろうとしていたこと、いる場所等が、ふいにわからなくなる
- ・道順・手順等が、ふいにわからなくなる

#### 多くが進行性であることにより

- ・昨日できていたことが、今日できるとは限らない

#### 理解・判断力の低下などにより

- ・金銭管理などに援助が必要
- ・人とのコミュニケーションが難しくなる

医療・福祉分野のサービス等の充実・強化を図るとともに、住民・多様な社会資源の参加を通じて地域の中で生活を「面的」に支える仕組みづくりが重要

### 医療・福祉分野の課題と取組の方向性

#### 研究

発生機序、診断法、予防・治療法などの解明

#### 医療

かかりつけ医等の適切な関わりによる早期発見及び早期からの生活支援の実現

認知症の周辺症状等が重症化した際に対応できる医療提供体制の確保

急性肺炎・骨折などの身体疾患等を発症した認知症の患者への、医療機関の適切な対応

介護・福祉との適切な連携

#### 介護

人材育成、福祉サービス第三者評価等を通じた各種サービスの質の向上及び認知症ケアモデルの確立

医療との適切な連携

#### 地域包括ケア

地域密着型サービスなどの基盤整備

地域包括支援センターを中心とした関係者の連携体制づくり及びケアマネジメント支援

認知症の人と暮らす家族への支援

虐待防止や成年後見制度の利用支援を含む権利擁護のための適切な対応

# 認知症支援の現状とまちづくりの展開（イメージ）

認知症支援の現状と課題

## 認知症高齢者の生活の現状

### 本人や家族が

認知症について不安や困難が生じた時に、どこに相談すればいいのかが具体的にわからない

認知症であることを知られたくないという思いが強く、なかなか周囲に支援を求められない

家族が相談したり情報交換をする場が少なく、精神的・身体的な負担が軽減できない

### 多くの都民が

「認知症」は何となく知っている（聞いたことがある）が、身近な問題とは思っていない

認知症になると本人は何もわからず、何もできないので、施設に入ったり、専門家に任せることが望ましいと思っている

### 地域での生活の場面で

ちょっとした失敗や混乱に陥った時にその場でサポートしてくれる人がいない

認知症の人が道に迷ったり行方不明になった時の連絡先等が用意されていない

### ケアや医療の場面で

認知症等の状況、能力にかかわらず画一的な介護をされることが多いほか、心身状況に応じた適切な医療が受けにくく、尊厳ある生活の継続が難しい

## 認知症高齢者を地域で支える東京会議

認知症についての正しい理解の普及

本人や家族が周囲に支援を求めやすい機運づくり

周囲の人々が本人や家族の支援に関わることのできる下地づくり



理解促進・普及啓発のためのキャンペーンなど

## 医療・福祉分野の取組

地域密着型サービスをはじめとする介護・医療の基盤整備  
介護・医療従事者の人材育成  
地域における多様な連携の促進・誘導 など

## 認知症になっても安心して暮らせるまち

### 本人や家族が

○認知症について早い段階で相談し、専門的な診断や適切な治療を受けている

○認知症であることを周囲にオープンにし、地域の中で、生活に必要な様々な支援を受けている

家族が様々な相談や情報交換をするための場があり、精神的・身体的な負担軽減を図ることができる

### 多くの都民が

認知症によって生じる生活上の困難はあるが、認知症になってもわかること、できることがあるを知っている

認知症の本人が、様々な不安、混乱などを感じながらも自分なりの生活を継続しようとすることを応援できる

### 地域での生活の場面で

商店街や店舗、駅などに、認知症の人やその家族に対して、小さな気配りができる人がいる

町で困っている認知症の人（かも知れない人）に地域の人が声をかけたり、さりげなく見守ってくれている

認知症の人が道に迷ったり行方不明になったときの連絡先等が用意されている

### ケアや医療の場面で

認知症等の状況・能力や心身の状況に応じて、できる限り自立し、尊厳ある生活を続けるためのケアや医療を受けている

介護保険の介護事業者等が、地域の住民と連携しながら本人や家族を支援する方法を考え、実践する拠点となっている

会議を契機とした取組の継続・発展・拡大